

破天荒

教宣部

5042号

2018年
6月15日

化学一般京滋地本
全竹中労働組合

2018 夏季一時金

回答2.45ヶ月



十四日は夏期一時金要求の回答指定日でした。今回の交渉よりオプトの業績が月数に反映されなくなり、回答は二・四五カ月でした。組合が求めているのは業績配分では無く安定した生活です。

二社の業績

オプトの組合員がいなくなったので、労働協約からオプトニツクの文字に取り消し線を引くよう会社から求められています。勿論、組合員が居なくなったので労働組合としてもそれで協定する方向で作業を進めていますが、現実問題、オプトの従業員が協約の権利を主張したとしても無効となるでしょう。(三十数年前の地労

委あっせんによる統一労働条件の考え方は残ります(が)

前年同期比、電子は売り上げ贈・経常利益減、システムはここ二十年で最低の売り上げ・経常利益は赤字に逆戻りという状況下での回答でした。

原因として電子はコンピュータシステムの混乱(入力作業は追いつけたが、運用が浸透していない)により受注があっても納品できないトラブルの続出・フォトIC入れ替えによる歩留まり率の悪化・コンピュータの検収による経費増などがある。システムは対象期間の前半が悪かったものの今年に入っては黒字の状態が続いていることにより何とか総決算で黒字に持ち込みたいという状況・特に検査機の売り上げ

の落ち込みが目立っているとのことでした。



あるべき数字

会社主張の変化は計算式があるとか・十万未満は切り捨てだとか、対照表があるとか、そのようなモノは無いか、でも何かがあるべき論なので月数回答を行っておられるわけですが、査定結果と同様、簡潔に説明できないそうです。

ここ数年続いていた回答月数計算式との乖離は、売上げと利益がうまくリンクできていない部分があつて製造原価と棚卸し金額の差異が生じてブレており、その不都合を直すために基幹システムを導入したそうです。(さすが経済学部)

中八日

組合が妥結の意思表示をして会社は(査定を含めた)一時金計算を始めるわけですが、ここ最近中九日と主張していた数字は電脳の効率化により従来の中八日と

なっているそうです。組合は現在の回答月数では不満なので次回団交で上積みするよう求めました。

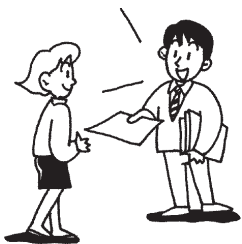
参考に

あると言ったり無いといたりした計算式で経常利益とパートも含めた従業員数で一時金月数を計算してみると、電子では二・五一カ月、システムでは想定内ギリギリの二・〇カ月、二社で二・四五月という数字が出てきました。

次回交渉

二一日に行うことを確認しました。また次のことを経営者に確認して回答することでした。

- ① 経常利益の差違は今後生じない。
- ② 混乱による損失金額。
- ③ 上積み(生活を考慮した年収という視点で)循環棚卸しの目的と効果
- ④



長時間労働

最近、どの職場も残業が多いと聞きます。長時間労働になれば必然的に睡眠時間が短くなります。睡眠不足が続くほど集中力、判断力も低下するためミスが増え悪循環に陥っていきま

「疲れは感じるが、まあ仕事は何とかできています」と考え、体力や気力が高い人ほど頑張り続けてしまいます。その結果、予想していないアクシデントが起きる可能性があります。またうつ病などのメンタル不調やめまい、動悸などの体調不良が発生しやすくなります。

平日は残業続きで睡眠不足が続いて週末に寝だめをする

すると睡眠のサイクルが乱れ「ブルーマンデー」と呼ばれる月曜日特有の憂うつ状態になりやすい。週末に心身の疲れを回復させるには、起きる時間を遅くして寝だめをするのではなく、就寝時間を三〇分でも早めることが大切です。

日々多忙を極めている方、体やメンタルを壊さないよう、とにかく睡眠時間を確保して下さい。